



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2001.12月号



しし座流星群、大出現！

あなたは見ましたか？

しし座流星群がすばらしい、そしてたくさんの流星をプレゼントしてくれました。

11月19日の明け方、マクノート・アッシャー理論の予報のとおり、日本で希有の流星雨が見られました。その日は博物館から、天体観察会の流星観測のベテラン数名とともに、山梨県の八ヶ岳山麓に観測に出かけました。

夜半頃から確かに流れる流星の数が多く、流星雨の出現を期待させるものがありました。そして、最初のピーク予報の午前2時過ぎからは、間断なく星空のあちこちに流星が流れ、3時過ぎには1分間あたり50～60個もの流星が流れ、見ているだけでしし座から流星が流れ出す様子がわかりました。その後も流星は夜が明けるまで活発に流れ続けました。

平塚でも、夜半過ぎまで低い雲が流れる中、午前3時過ぎから晴れ始め、流星雨がピークを迎えた頃から見ることができました。明るい流星がたくさん飛び交い、いくつもの流星が同時に流れる様子が見られました。

この流星雨を見て、いろいろな感想が寄せられています。その中から、Mさんの感想をご紹介します。

小学生のとき星好きになって、流星雨というものを知つて以来、約20年待ちに待った日でした。そして、これが生涯で最後のチャンスであることも知っていました。降りしきる流れ星を見ながら、狂喜するというよりは、意外と非常に冷静な精神状態で、たいへん切なくなりました。永遠の別れと同時にやってくる待ち焦がれた出会いというものは、私には初めての経験だったように思います。

東海道宿駅制度400年記念 巡回展 <特別展示室にて12月23日(日)まで開催> 「二宮・大磯・平塚を結ぶ道—東海道—」の展示品から

1 「大名衆帳」から「休泊帳」へ

写真1の「御大名衆帳」と写真2の「御休泊控帳」は表題が違っています。しかし、いずれの資料も大磯宿の本陣（小島本陣）を誰が、いつ利用したかを記載した「宿帳」です。

では何故、同じ「宿帳」で表題名が違うのでしょうか。この違いを知るためには、「本陣」の歴史的経緯を少し説明しなければなりません。

本陣は、参勤交代の大・小名、公家、宮門跡、勅使、公用の幕府役人などが、旅の途中に休泊した大旅館をいいます。もともと本陣は、天皇が朝覲行幸などをする際に、その行列の中心である鳳輦（天皇乗御車、輿）を囲む一陣をいいました。それが後に軍陣の中核、総大将のいる本營を意味し、江戸時代には大名などの宿陣のいわゆから、転じて道中休泊の中心となる民営の宿舎を「本陣」というようになつたといいます。

慶長6年（1601）に伝馬の制が定められた後、東海道では寛永のはじめ頃に各宿駅も整備され「本陣」もしだいに増加し、寛永12年（1635）の参勤交代制の実施以降に一般化しました。正確には前年、3代將軍家光の上洛に際し東海道や美濃路などの宿駅大名宿の亭主が本陣役（本陣職）に任命されてからでした。

本陣役任命の発端は、徳川家康の関東入国以来、諸大名が東海道を通行する際に、家が広く、田畠山林を多く持ち、下男下女を多数召し抱えている者のところに休泊していたことに始まります。それが、やがて往来の増加とともに、定宿のようになり初めは「大名衆宿」といっていました。その後、大名ばかりでなく紀州家や尾州家、日光門主や幕府役人なども休泊するようになり、「大名衆宿」ということが不適当となつて、寛永期に「本陣」と唱えるように申し渡されました。しかし、その時に「本陣職」という職分が決まつたわけではなく、正式に「本陣」と言い習わされるようになるのは、元禄以降、「本陣」といっていた者の中から、道中奉行によつて選ばれ者たちが正式に「本陣職」に就いたのでした。以上の説明から、本陣は初め「大名衆宿」といわれていたこと。正式に「本陣」といわれるようになるのは、時代も下がつて元禄期頃からであることがわかりました。この違いが「宿帳」の表題の違いに現れているのです。



写真1
慶安2年(1648)
「御大名衆帳」
大磯町郷土資料館所蔵

写真2
文化8年から14年
(1811~17)
「御休泊控帳」
大磯町郷土資料館所蔵

2 間の宿本陣松屋

各宿と宿の間にある村のことは、「間の村」と呼びます。この「間の村」は、県下の東海道9宿の間に合計56カ村を数えます。この「間の村」の中には、旅人や人足、駕籠かきなどが休息する場所、あるいは馬の付け替え・継ぎ立ての場所として立場が設けられた「間の村」もありました。立場は、休息所としての役割を持つことから、宿と宿との間の距離が長くなればなるほど休息所の必要性は高くなり、立場の数も増える傾向にあります。しかし、立場は宿間を均等に割って設置されていたわけではありません。また、立場は休息所であることから「掛け茶屋」と称される茶店が設置される場合がありました。こうした茶屋のある立場を、特に「立場茶屋」といい、一般に街道町並みの端の一画に集中する傾向にあります。山西村梅沢の地は、川勾神社をひかえた東海道沿いの門前町として、山西村のなかでも早くから栄えていた場所で、立場としても有名な場所です。

この梅沢の立場について、『新編相模国風土記稿』の中では「小名越路に立場あり、梅沢の立場と呼ぶ、茶店軒を連ね、諸侯の憩休所等も有りて、頗繁榮なり」と記述します。文中の「諸侯の憩休所」が「茶屋本陣」松屋です。間の宿本陣は、休憩のみの利用が認められていたことから、大磯宿や平塚宿にある本陣と区別して「小休本陣」とも呼ばれました。写真3は、天保12年(1841)正月に焼失した本陣松屋の敷地と家屋の見取り図です。

間口7間半(13.5m)、奥行き15間余(27.3m)の112坪余の規模を持ち、街道に面した右側は、白壁塀に囲まれ、一段奥まった所に屋根付き御門と敷台付き玄関があります。玄関奥には内玄関、それに続き違い棚や床間付きの上段の間があり、規模こそ小さくなりますが、その造りは、大磯宿や平塚宿にある本陣と同じような造りになっています。大磯宿小嶋本陣、平塚宿加藤本陣の見取り図とは非くらべみてください。

3 休泊者の出迎え

参勤交代の大・小名のほか、公家、宮門跡、勅使、幕府公用人などが、本陣に休泊する場合、50日、100日もしくは1年も前から各宿駅の本陣や問屋場へ事前に通知するのが習わしです。この事前の通知を「先触」といいます。本巡回展では平塚宿問屋場への先触が展示（貼交屏風）され、手配や宿泊先である本陣の利用を事前に確保する必要があ

本陣利用の当日、本陣では利用者出迎えのため、本陣主人自ら、あるいは代理として遠見の手代を出します。大磯宿小嶋本陣では、下りの時は間の宿梅沢、上りの時は間の宿南郷（南湖）まで出迎えるのが通例でした。

本陣利用者について、本陣は「由緒書」「記憶簿」といった種類の書類を作っています。この「由緒書」「記憶簿」といった書類は、何時、誰が、どんな用で、何人が利用したか、あるいは利用に際し、本陣ではどのような処遇をしたかなどを代々にわたり克明に記録したものです。したがって、本陣では定宿として利用する利用者について、さまざまな記録を残し、万端、粗相のないように受け入れを準備していました。

写真4は、寛政12年(1800)作成の小島本陣の「記憶簿」です。この「記憶簿」は、大磯宿を過去に利用したことのあるすべての大・小名について、城持ちであるかないか、国主であるかないか、外様か譜代かの別、禄高や国の所在地、江戸屋敷の所在地、小島本陣を定宿とするかどうかなどを記号と色で区別し、槍印にいたってはその形を彩色し図式化して一冊の帳簿に仕立てました。したがって、この帳簿を見ると一目で利用者のことが判るようになっています。出迎えに出た本陣主人や手代は、出迎えに際し、この「記憶簿」を常に携帯し出迎えに出たものと考えられます。行列の先頭に見える槍印や荷印により、遠くから進んでくる行列がそれとわかります。利用者である場合、使いを走らせ、本陣到着の近いことを知らせ、準備を指示したのでした。

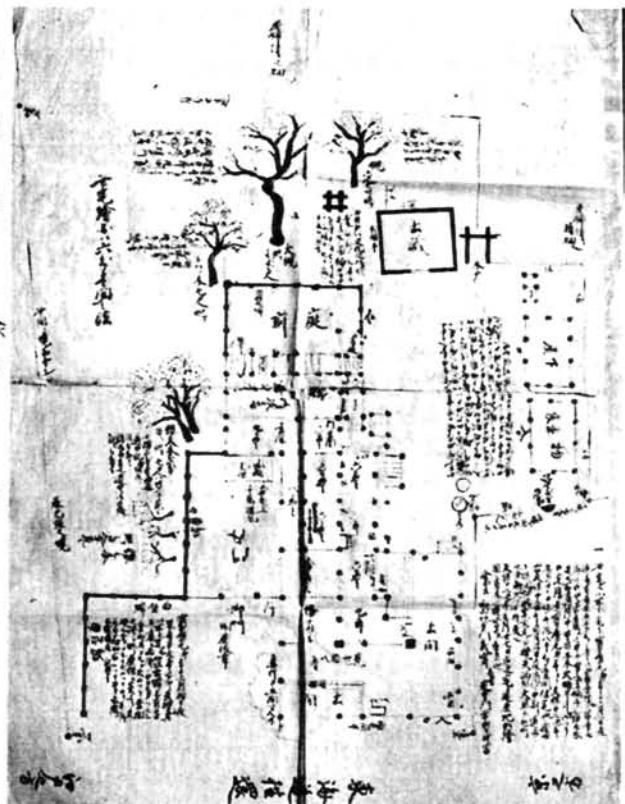


写真3 年不詳(天保12年)「間の宿本陣松屋絵図」
和田義則氏所蔵



写真4 寛政12年(1800)「記憶簿」大磯町郷土資料館所蔵

博物館カレンダー

<平成13年12月>

<平成14年1月>

2 日	○特別展記念連続講座「東海道」 地質調査会	講堂 野外
5 水	民俗探訪分科会「社寺調査」 宇宙を学ぶ会	横内 プラネ室
6 木	展示解説ボランティアの会	特研室
7 金	古文書講読会	講堂
8 土	◎漂着物を拾う会 ☆プラネタリウム「2002年の天文現象」(～2月3日) ◎星を見る会「冬の星座と土星」 天体観察会「冬の星座と土星」	虹ヶ浜 プラネ室 屋上 屋上
9 日	民俗探訪会「昔語り」 水辺の楽校生きもの調べの会	講堂 相模川
13 木	石仏を調べる会	特研室
14 金	古文書講読会	講堂
15 土	○体験学習「お飾りを作ろう」 天体観察会「ふたご座流星群」(～16日)	講堂 天文台
16 日	○特別展記念連続講座「東海道」 古代遺跡を探す会「分布調査」 ◎ろばたばなし 相模川の生い立ちを探る会「小仏層の模式地」	講堂 土沢 展示室 景信山
19 水	民俗探訪分科会「社寺調査」 裏打ちの会 宇宙を学ぶ会	大神 科学室 三鷹市
20 木	展示解説ボランティアの会	特研室
21 金	古文書講読会	講堂
22 土	地質調査会 プラネタリウム番組を作る会	特研室 プラネ室
25 火	プラネタリウム番組を作る会	プラネ室
26 水	プラネタリウム番組を作る会	プラネ室
27 木	プラネタリウム番組を作る会	プラネ室

◆◆ 博物館まつり 準備進行中 ◆◆

恒例となった『博物館まつり』の準備が今年も進んでいます！

博物館で活動し、また博物館の活動を支えるサークルが主体となって、年に一度の展示や発表を行ないます。すでに二度の実行委員会を開き、下記の予定が決まりました。各サークルとも張り切って企画を練っています。どうぞ期待ください。

期 日：2002年2月1日（金）～2月10日（日）

場 所：平塚市博物館特別展示室

発表会：2月9日（土）13時より

その他：古文書の裏打ち実演、縄文土器焼き実演、展示解説ツアーなど

★参加団体★

裏打ちの会、民俗探訪会、古代遺跡を探す会、漂着物を拾う会、平塚地質調査会、相模川の生い立ちを探る会、神奈川キノコの会、石仏を調べる会、天体観察会、展示解説ボランティアの会、平塚の空襲と戦災を記録する会、ろばたばなしの会

*年末年始休館のお知らせ

12月28日(金)から1月4日(金)まで休館します。

5 土	天体観察会「スター・ウォッチング調査」	屋上
6 日	☆寄贈品コーナー「天文部門」(～1月30日) 水辺の楽校生きもの調べの会	展示室 相模川
10 木	石仏を調べる会	特研室
11 金	古文書講読会	講堂
12 土	民俗探訪会 ◎漂着物を拾う会 ◎星を見る会「惑星と星雲星団」 天体観察会「スター・ウォッチング調査」	講堂 虹ヶ浜 屋上 屋上
13 日	地質調査会	科学室
16 水	民俗探訪分科会 裏打ちの会 宇宙を学ぶ会	大神 科学室 プラネ室
17 木	展示解説ボランティアの会	特研室
18 金	古文書講読会	講堂
19 土	地質調査会	科学室
20 日	◎ろばたばなし	展示室
24 木	石仏を調べる会	特研室
25 金	古文書講読会	講堂
26 土	平塚の空襲と戦災を記録する会 ○こども観察会「1月の自然」	特研室 野外
27 日	古代遺跡を探す会「分布調査」	土沢

☆：展示（無料） プラネタリウム（観覧料）

○：申込制 ◎：自由参加 無印：会員制

＜展示とプラネタリウム＞

☆東海道宿駅制度400年記念
巡回展「二宮・大磯・平塚を結ぶ道－東海道－」
宿場絵図などの資料を通して大磯宿と平塚宿の実態を紹介するとともに、二宮町梅沢に置かれた間の宿に関する資料も公開します。
会期：12月23日（日）まで

☆寄贈品コーナー「箱根火山展」

箱根火山の岩石と鉱物を展示します。

会期：12月27日（木）まで

☆プラネタリウム「2002年の天文現象」

日食は？流星群は？宵の明星は？2002年の年間星空予報をします。

期間：12月8日（土）～2月3日（日）

投影日：土曜日の11時と14時

＜参加者募集＞

◎漂着物を拾う会

海岸に流れ着いた物から、来歴を推理したり、自然環境を考えたりします。

日時：12月8日（土）9時30分～11時

場所：平塚虹ヶ浜海岸

参加：自由（ただし、初めての方は往復はがきで申し込み込むこと）

◎星を見る会「冬の星座と土星」

日時：12月8日（土）19時～20時30分

場所：科学教室・屋上

参加：自由

◎ろばたばなし

民家の囲炉裏端で昔話を聞いてみませんか。

日時：12月16日（日）(1)13時30分～(2)15時～

場所：展示室民家

参加：自由